

“巨大なコミュニティ”とも言える京都大学では、組織や個人レベルの活動に伴い、日々、様々な資源・製品が流入し、使用されたり、保管されたりしています。そのうち、流入量が把握できているのは全体ではありません。まず、重要と考えられるものから、実態把握・分析に努めなければなりません。

ここでは、実態が把握されている紙製品（コピー用紙）及び水の使用実態について報告し、また、グリーン調達の取り組み状況を紹介します。

紙製品使用の実態

様々な紙製品が、購入・使用されたり、また雑誌や論文、報告書等といった形で流入したりしていますが、現在、おおよその全体量を把握できていると考えられるのは、大学全体で共同購入しているコピー用紙です。それ以外にも、購入している紙製品はありますが、共同購入に比べて量が少ないため、今回は対象外としました。

京都大学のコピー用紙購入枚数*（2002～2005年度）を図9に示します。

※A4用紙1枚3.99gとして、枚数に換算しました。

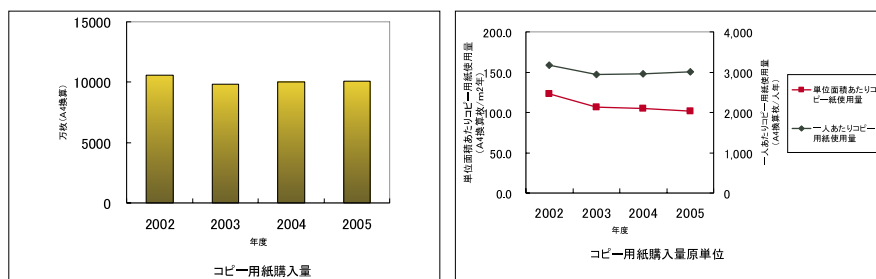


図9 京都大学のコピー用紙購入量 (2002-2005年度)

⇨データ集：部局別 コピー用紙購入量

これによると、コピー用紙の総購入量は、2005年度で101,000,000枚（403,000kg）となり、2002年度比で、やや減少傾向にあることがわかります。これは、構成員が自主的に、コピー用紙の両面・裏紙利用、ペーパーレス化などに取り組んでいる結果と考えられます。

しかし、一人あたりの紙使用量は、年間約3,000枚（12kg）程度となり、重要な環境側面と考えられ、今後、全学的に利用実態の把握や有効利用方法の検討、啓発を進める必要があると考えられます。

また、紙については、リサイクルシステムが構築・改善されつつあり、グリーン調達（再生紙の購入）や使用後の紙の処分方法（リサイクルシステムの構築や参加）についても、あわせて検討していく予定です。



水使用の実態

京都大学の水使用量（2002～2005年度）を図10に示します。なお、京都大学の水のほとんどは地下水からつくられています。

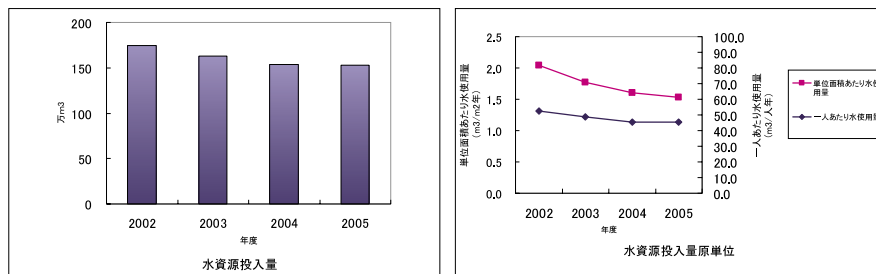


図10 京都大学の水資源投入量（2002-2005年度）

⇨データ集：キャンパス別 水資源投入量、地下水くみ上げ量

これによると、水の使用総量は、2005年度で1,520,000m³となり、2002年度から減少傾向が続いていることがわかります。これは、ハード面で、冷却水循環装置やトイレ用擬音装置など水の効率的利用に配慮した設備の導入、給水管からの水漏れ箇所の管理・修繕体制構築などに取り組んだ結果と考えられます。

しかし、一人あたりの水使用量は年間45m³（ただし、病院とその他をわけて見ると病院は205m³、その他は35m³）で、日本平均115m³/人・年の半分近くが消費されていることとなります。今後とも、節水の呼びかけを行い、構成員の節水に対する意識向上に努めるなど、ソフト面での取り組みも進めていかなければなりません。

グリーン調達の取り組み

2000年のグリーン購入法の制定に基づき、京都大学では、「環境物品等の調達の推進を図るための方針」を定め、紙類、文具類、作業服、インテリア、繊維製品、OA機器、家電製品、照明器具、自動車等について、対象品目を設定し、それらについては、100%の調達率を達成しています（データ集参照）。公共工事についても、環境に配慮した資材投入等を積極的に推進しております。ただし、今後は、購入量そのものを減らすことが重要と考えられます。

※京都大学のグリーン購入の方針について、詳しく知りたい方はHPで公開していますので、参照下さい。

[http://www.kyoto-u.ac.jp/notice/05_keiyaku/kbuppin_2006_2.htm]

★グリーン購入法とは？

循環型社会の形成のためには、再生品等の供給面の取組に加え、需要面からの取組が重要であるという観点から、2000年5月に循環型社会形成推進基本法の個別法のひとつとして国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）が制定されました。

同法は、国等の公的機関が率先して環境物品等（環境負荷低減に資する製品・サービス）の調達を推進するとともに、環境物品等に関する適切な情報提供を促進することにより、需要の転換を図り、持続的発展が可能な社会の構築を推進することを目指すものです。また、国等の各機関の取組に関するほか、地方公共団体、事業者及び国民の責務などについても定められています。

